



## Agilent IO Libraries Suite クイック・スタート

ここに記載の情報は、*Agilent IO Libraries Suite* バージョン15.1 (2008年10月) に対して改訂されています。これらの情報は、以降のバージョンにも適用される可能性があります。最新のリリースとサポート情報については、以下をご覧ください。

<http://www.agilent.com/find/iolib>

### IO Libraries Suiteのインストールを必要とする場合

測定器をPCに接続する計画がある場合、Agilent IO Libraries Suiteをインストールしてください。PCから測定器を制御する際、あるいはPCにデータを転送する際のシステム設定が容易になります。Agilent測定器ドライバ、Agilent IntuiLinkコネクティビティ・ソフトウェア、またはその他のアプリケーション・ソフトウェアを使用している場合、最初にIO Libraries Suiteをインストールすると、アプリケーション・ソフトウェアや測定器ドライバに対するサポートが得られます。

一部のAgilentアプリケーション・ソフトウェアと一部のAgilentドライバでは、インストール時にAgilent IO LibrariesまたはIO Librariesのサブセットが自動的にインストールされます。この場合でも、最新のIO Libraries Suiteと、設定とトラブルシューティング用のすべてのIO Libraries Suiteユーティリティを入手するため、IO Libraries Suiteのインストールを行ってください。

Agilent測定器を購入したときに、その他のアプリケーションCD-ROM (IntuiLink CDなど) と一緒にAutomation-Ready CD with Agilent IO Libraries Suiteを受け取った場合は、必ず最初にAutomation-Ready CDをインストールしてください。



# IO Libraries Suiteのクイック・スタート手順

## 1. IO Libraries Suiteソフトウェアのインストール

- a プリインストール・チェックを実行します。
  - PCが最小システム要件に適合することを確認します (6ページのシステム要件を参照してください)。
- b IO Libraries Suiteをインストールします。
  - PC上のその他のアプリケーションをすべて閉じ、*Automation-Ready CD with Agilent IO Libraries Suite*をCD-ROMドライブに挿入して、画面の指示に従います。
  - IO Libraries Suiteのインストールが自動的に開始されない場合、(Windowsのスタートメニューで) **スタート > ファイル名を指定して実行**を選択し、<drive>:\autorun\auto.exeと入力します。ここで、driveはご使用のCD-ROMドライブです。
  - IO Libraries Suiteが正常にインストールされると、**図1**に示すように、PC画面のタスクバー通知領域にIOコントロール (IOアイコン) が表示されます (通知領域には、通常時計が表示されています)。
  - インストールで問題が発生した場合、『Agilent Connectivity Guide with IO Libraries Suite Getting Started』(英語版のみ、パーツ番号 5989-6150EN) の第2章「Installing Agilent IO Libraries Suite」を参照してください。



図1 通知領域のIOコントロール・アイコン

## 2. インタフェースまたは測定器ハードウェアの接続と設定

新しいハードウェア（インタフェース・カード、コンバータ、測定器）をインストールしていない場合は、このセクションを飛ばして、そのままステップ3に進んでください。

- a ハードウェアをインストールします。測定器またはインタフェース製品（Agilent GPIBカード、USB/GPIBインタフェース・コンバータなど）を購入したときにAgilent IO Libraries Suiteを受け取った場合には、この時点でハードウェアをインストールします。インストール手順と特定のハードウェア設定（イーサネット・アドレスやGPIBアドレスの設定など）については、ハードウェア製品のマニュアルを参照してください。ハードウェアのインストールの一般的な手順は、*Agilent Connectivity Guide*に記載されています。このガイド（PDFフォーマット）を表示するには、IOコントロールをクリックし、**Documentation > Connectivity Guide**を選択します。**Documentation**メニューには、インストール済みのAgilentインタフェース・ハードウェア製品のマニュアルも含まれています。
- b ハードウェアを設定します。必要に応じてPCの電源を入れます。新しいハードウェアをインストールするためPCの電源を切った場合は、インストールの完了後にPCの電源を入れ直して、PCが起動するまで待ちます。必要なハードウェア設定を行います。

### 注記

USBデバイスを接続したときには、Windowsで**Found New Hardware Wizard（新しいハードウェアの検索ウィザード）**が表示される可能性があります。使用するUSBデバイスがAgilent USBTMC測定器またはAgilent USB/GPIBインタフェース・コンバータの場合、必要なドライバはすべてIO Libraries Suiteと共にすでにインストールされているので、ウィザードから指示があってもCDを挿入する必要はありません。単にウィザードが終了するまで**Next**をクリックします。2番目の**Found New Hardware Wizard（新しいハードウェアの検索ウィザード）**が表示された場合、同様にウィザードが終了するまで**Next**をクリックします。これらのウィザードは、Windowsがデバイスを認識できるように、インストールされたUSBドライバを適切なディレクトリに配置します。

## 3. Connection Expertの実行によるI/O設定の検証

- a **Agilent Connection Expert**を実行します。Connection Expertユーティリティがこの時点で自動的に起動しない場合、IOコントロール（Windows通知領域のIOアイコン）をクリックし、**Agilent Connection Expert**をクリックします。

**b 必要に応じてI/O設定を変更します。** Connection Expertが、ほとんどのインタフェースと測定器を自動的に検出し、名前やその他のデフォルト構成設定を割り当てます。これらのパラメータを変更する場合、変更作業がConnection Expertウィンドウで行えます。

- Connection Expertウィンドウの中央にあるエクスプローラ・ペインで測定器またはインタフェースを選択します。
- 選択したアイテムのプロパティが右側のプロパティ・ペインに表示されます。エクスプローラ・ペインでアイテムを右クリックすると、そのアイテムに対して実行できるアクションのショートカット・メニューが表示されます。これらのアクションは、Connection Expertウィンドウの一番上にあるメニューからも利用できます。一般的なアクションのほとんどは、Connection Expertのタスク・ガイド（ウィンドウの左のペイン）にもリストアップされています。
- Connection Expertがハードウェアを自動的に検出しない場合（例えば、ハードウェアがイーサネット経由またはシリアル・ポート経由で接続されている場合）、システム設定をテストするため測定器またはインタフェースを手動で追加することもできます。
- Connection Expertおよび設定変更の詳細については、*Agilent IO Libraries Suite Online Help*を参照してください。

**c 測定器の接続をテストします。**

- Connection Expertは、自動識別プロパティが**Yes**に設定されている測定器に、自動的に識別クエリ（\*IDN?）を送信します（この機能をオフにする場合は、*Agilent IO Libraries Suite Online Help*を参照してください）。
- 測定器を表すアイコンに緑のチェック・マークが付いている場合、測定器は予想どおりに応答しています（\*IDN?クエリをサポートしていないため、適切に応答しない測定器もあります）。測定器の識別情報は、Connection Expertウィンドウの右側のプロパティ・ペインに表示されます。



- タスク・ガイドまたはショートカット・メニューで**Send commands to this instrument**を選択すると、測定器への接続を明示的にテストし、機能をさらに活用できます。Interactive IOユーティリティが起動し、ユーティリティによって測定器にコマンドを送信して、その応答を表示できるようになります。実行時間がInteractive IOのデフォルトのタイムアウトを超えるコマンド (\*TST?による測定器セルフテストなど) もあります。Interactive IOウィンドウで**Interact > Options...**を選択して、タイムアウトを変更できます。

#### 4. オプション: 追加ソフトウェアのインストール

Agilent測定器またはインタフェース製品と一緒に*Automation-Ready CD*を受け取った場合、追加ソフトウェアと製品関連情報が収録された2番目のCD-ROMを受け取る可能性もあります。このCDには、測定器ドライバ、専用アプリケーション、サンプル・プログラムなどのソフトウェアが収録されています。ソフトウェアに関する詳しい説明とインストール情報については、ハードウェアに付属のマニュアルを参照してください。

## システム要件

オペレーティング・システム	Windows XPサービスパック2 (またはそれ以降) Windows 2000 Professional、SP 4 (またはそれ以降)	Windows Vista (32ビットのみ、Business、Ultimate、Enterprise Home Basic、Home Premiumエディション) <sup>1</sup>
プロセッサ	450 MHzのPentium II以上が必要、800 MHzを推奨	1 GHz 32ビット (x86)
使用可能メモリ	128 MB 最小値 (256 MB以上を推奨)	512 MB 最小値 (1 GBを推奨)
使用可能ハードディスク容量 <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Microsoft .NET Framework 2.0用に280 MB 最小値、1 GBを推奨、</li> <li>Agilent IO Libraries Suite用に65 MB</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Microsoft .NET Framework 2.0用に280 MB 最小値、1 GBを推奨<sup>3</sup></li> <li>Agilent IO Libraries Suite用に65 MB</li> </ul>
ビデオ	Super VGA (800×600)、256色以上	DirectX 9グラフィックをサポート、128 MBのグラフィック・メモリを推奨 (Super VGAグラフィックをサポート)
ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 5.01以上	Microsoft Internet Explorer 7以上

- 1 64ビット・エディションはサポートされていません。
- 2 注記: インストール手順により、操作に必要なメモリは、インストールに必要なメモリよりも少ない可能性があります。
- 3 Windows Vistaでは、.NET Frameworkがデフォルトでインストールされています。このため、このハードディスク容量を必要としない可能性があります。